

Letters to the Editor

髄液細胞種類の表記について

田村 正人*

The description of cell species in cerebrospinal fluid

Masato Tamura, M.D.

Department of Neurology, Nagaoka-Nishi Hospital

(臨床神経, 49 : 194, 2009)

2008年12月25日

拝啓

髄液検査における細胞種類の表記について、本誌掲載論文においても、混同、混乱があると考え、筆をとりました。

本誌第48巻1号から9号において、髄液細胞種類の記載がある論文(原著、症例報告および短報)は19編あり、このうち単核球のみあるいはリンパ球のみと記載された9編を除く、10編の髄液細胞種類の記載について、検討しました。正確な記載と考えられる「単核：多形核」が僅か1編のみであるのに対し、「単核：多核」が5編と最多であり、その他「リンパ球：好中球」2編、「多核球優位」および「リンパ球：分節核球」各1編でした。

髄液細胞種類の表記については、mononuclear leukocyte = 単核白血球(単核球)は良いとして、polymorphonuclear leukocyte = 多形核白血球(多形核球)であり、決して多核白血球(多核球)ではないと考えます。一般に、成熟好中球の核は分

葉(分節)はしているものの糸状につながっている多形核球ではあるが、多核球ではありません。臨床上必要な髄液細胞数、細胞種類の判定にもちいられるSamson液では、単核白血球か多形核白血球かの判定はできるが、白血球の種類に関する詳細な分析には他の染色法をおこなう必要があり、多形核球のすべてが好中球であるとはいえません。また、正常髄液中にみられる細胞は単核球であり、このうち約70%がリンパ球、残り30%が単核球であるため、単核球のすべてがリンパ球であるとはいえない点にも注意が必要と考えます。したがって髄液細胞数のカウント時における細胞種類の記載については、単核球、多形核球に統一すべきものと考えます。日本神経学会誌である本誌において、このような基本的事項の記載に関して、混乱、混同があることは、きわめて遺憾と考え、一言申し上げました。

敬具

*Corresponding author: 長岡西病院神経内科 [〒940-2081 新潟県長岡市三ツ郷屋町 371 番地 1]
長岡西病院神経内科
(受付日: 2009年1月5日)